

一般社団法人福祉システム北海道 5周年記念創刊 年刊誌（年報）そこにある福祉2021

はじめに（代表理事あいさつ）

日頃より一般社団法人福祉システム北海道にご協力を頂き、誠に感謝申し上げます。この度、2022年1月に当法人5周年を迎えることが出来たことも、皆さまのご理解があつてのことと存じ上げます。今後とも、福祉の立ち位置を基本として、社会や地域に情報を発信していけるように努めていきたいと思ひます。引き続き、宜しくお願ひ申し上げます。

代表理事 高橋 銀司

特集 エッセイ『そこにある福祉2021の出来事』

【天井】ペンネーム よりみち さん

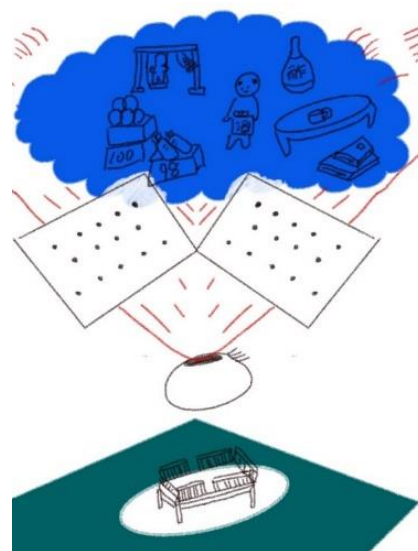
病院や入所施設の天井には、無数の点々が散らばつた模様がある。場所によっては等間隔の模様であるものとそうじゃないものがある。みんな知っているだろうか。

私は、15年間、肢体不自由の障害のある当事者として、学生や福祉従事者に、障害のある人が見える景色を伝え続けている。

20年前、私は点々模様の天井を眺めて1日が終わる日を過ごしていた。その模様で絵が浮かび上がらないかと探せるくらい、時間はたっぷりあつた。今は、リビングの部屋、調味料がごちゃごちゃに立っているキッチンの脇、机に積み上がった読みかけの本、安い八百屋さん、公園で遊ぶ子どもたち、酒屋のおっちゃんなどが景色になつた。

天井しか見ることがない景色から、一人暮らしの景色に、そして、長きにわたつて住んだ北海道を離れ、関西に移り住んだことにより、周りの人の言葉も、肌で感じる湿度も、スーパーに並ぶ野菜の変化が際立つた。あつという間に、1日1日が過ぎていくようになった。20年前は、そういう変化を感じる事ができるようになると思わなかつた。

学生への講義や福祉従事者への研修では、まず、自身の見えている景色を客観的に見るように促している。それを世界と呼ぼう。「私は目が見えるので、目の見えない人が空気の流を読むという世界を初めて知つた」という気



よりみちさんからの1枚

づきと同じように、自身の世界がわかって他人のそれがわかり始める。さらに、もっと色々な人が体験している世界を知ること、自分の世界は無数にある世界のうちの一つなのだという事に気づく。

最近、私のヘルパーだった友人が、「ヘルパーとして自信がなかったのですが、よりみちさんのところで働いて、肩の荷が降りたんです。」と言ってくれた。当時、彼女は動きがぎこちなく頭で考えてしまっていたので、真正面から向き合っ、彼女の様子を正直に話したことがあった。「こうでなければならない」という発想は自分も相手も縛ってしまう。無数にやり方も生き方もあると知ること、苦しくて違和感を持ったときに、すぐ気がついて修正しやすくなるのだろう。その当時は、ヘルパーに厳しくしすぎたのではないかと自信をなくしていたので、3年後に彼女から当時の心境を聞いて、背負っていたものがスルッと流れていった。

私が見てきた天井の世界は、案外広がったのかもしれない。もちろん、そう思えるのは、福祉の制度ができたことで、ベッドでの生活～「一つの世界」～に縛られない生き方が社会に示されたからだ。そういった景色を伝えることが私の一つの役目であり、お互いの景色が見えることで、生きやすくなるような世界を作れるかもしれない。ここに来て、やっと、天井から向こうの世界が見えてきた。



福祉システム北海道では、〇(まる)福連携プラスと題しまして、YouTubeチャンネルを開設しております。当法人の代表理事で福祉有資格者の高橋銀司が異業種の方々にインタビューをして、福祉や介護について考える番組です。

【聞くには早く、語るのに遅く】ペンネーム ふくろう さん ふくろうさん

私は今から2年ほど前、職業訓練に半年間通い、介護福祉士実務者研修の資格を取得しました。その研修では、介護保険の制度や高齢者の身体状況について、また実技の時間もあり、シーツの効率的な交換の仕方やおむつ交換・入浴介助など多くのことを学びました。

からの1枚



札幌エルプラザ公共4施設

札幌市男女共同参画センター

札幌市消費者センター

札幌市市民活動サポートセンター

札幌市環境プラザ

札幌市北区北8条西3丁目

札幌エルプラザ内

☎011-728-1222 (総合案内)

人が集まる、
夢が生まれる、
未来が拓ける



指定管理者：(公財) さっぽろ青少年女性活動協会

介護の現場で活躍されている熱心な講師の方々や同じ目標に向かっていく同期のメンバーとの交流もあり、充実した学びの時間を過ごすことができました。この研修で、福祉用具専門相談員の資格も取得することができました。そして、現在は福祉用具専門相談員として働いております。勤め始めた頃は、電動ベッド、車いす、歩行器など何もかもがめずらしく、興味津々で福祉用具に触れていきました。上司や諸先輩方から扱い方を丁寧に教えていただき、実際にベッドを組み立てたり、車いすのブレーキを調整したりと、少しずつ仕事ができるようになっていきました。そのような中で学んだことがあります。それは、「利用者さんのお話を聞く」ということです。

職業訓練で様々なことを勉強したので、以前よりも介護については詳しくなっていたと思っていました。ところが、「自分が学んできたことを話したい」という欲求が強くなってしまったのです。適切なアドバイスであれば良いのですが、「単に自分の知っていることを利用者さんにも知って欲しいというだけなら、利用者さんにとっては迷惑なことかも知れない」、と思うようになりました。特に、相談員らしく見せようと専門用語を多く使ってしまい、かえってわかりづらくなってしまったこともありました。

以来、「まずは利用者さんのお話を聞くことから始めよう」と心がけるようにし、利用者さんが、何を、どうしたいのか、を聞くことで、より適切な用具をご提案できると気づきました。また、お話しをすることは利用者さんの心の安堵にもつながるのではないかと思います。楽しいこと、つらいこと、悩んでいることなど、お話を聞くことで、悩みが軽くなることもあると思います。さらに、利用者さんの状況をケアマネージャーと共有することもでき、様々な方と連携しやすくなると感じました。

福祉用具専門相談員としての役割を果たしつつ、他職種の方々と共に利用者さんの生活全体の満足度を上げていきたいと思っております。これからも「聞くのに早く、語るのに遅く、」を実践し、利用者さんの生活向上のお手伝いができれば幸いです。

介護 新聞

道内唯一の『介護』専門紙

地域包括ケアシステム構築に向けて、医療と介護の連携が急務となっています。『北海道医療新聞』の姉妹紙『週刊／介護新聞』では、厚生労働省などの中央情勢をはじめ、道や各市町村などの行政施策動向ほか、道内介護・福祉現場の現状をタイムリーに取材し、報道しております。

『週刊／介護新聞』は介護に従事する専門職向けの情報専門紙。介護保険事業所やサービス付き高齢者向け住宅などの運営や事業展開の一助となるよう、いち早く制度の動向や現場の声をお伝えします。

●発行日/毎週・金曜日 ●タブロイド変型判11段組み10頁 ●年間購読料/16,500円(税込)

年間購読受付中!

電話またはFAX・メールで
お申し込みください。

※ご希望の方には見本紙をお送りいたします。

介護新聞編集部

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目（北海道医師会館）
TEL.011-221-7777
FAX.011-281-2678 kaigo@medim.co.jp

社団法人 日本専門新聞協会加盟
株式会社 北海道医療新聞社

〒060-0042
札幌市中央区大通西6丁目
(北海道医師会館)

☎(011) 221-7777 FAX(011) 281-2678
<http://www.medim.co.jp/>



福祉システム北海道の軌跡

札幌市
さぼーとほっと基金
助成事業



- 2018年1月5日設立 (4月1日事業開始)
- 8月11日 背骨コンディショニングから学ぶ腰痛予防講座
- 12月1日 介護福祉士国家試験対策講座『社会の理解』
- 2019年2月23日 アナウンサーが大切にしているコミュニケーション講座
- 5月2日 背骨コンディショニングから学ぶ腰痛予防講座
- 9月2日 美容師から学ぶ洗髪(シャンプー)方法講座
- 11月下旬 介護新聞『O福連携』5週に渡る連載
- 2020年1月16日 歯科衛生士から学ぶ口腔ケア講座
- 3月9日 弁護士から学ぶ年金講座
- 2021年3月1日 『尊厳保持と自立に向けた整容援助技術ー介護に活かせる歯科衛生士・理容師・美容師からのテクニック』発行(一般会員限定)
- 9月27日 美容師から学ぶ洗髪(シャンプー)方法講座
- 11月下旬 介護新聞『O福連携 2021』5週に渡る連載
- 2022年1月17日 『O福連携プラス』YouTube 動画配信
- 2月11日 背骨コンディショニングから学ぶ腰痛予防講座

福祉システム北海道における今後の主な取り組み予定

- ・北海道医療新聞社介護新聞による『O福連携～異業種との対話』の期間(年末時期)連載予定
- ・スキルアップ研修～福祉系職員からみた他職種(理美容師・歯科衛生士など)や異業種から学ぶ実践・演習による研修～
- ・『O福連携プラス』YouTube 動画配信
- ・年刊誌『そこにある福祉』の発行

福祉システム北海道の
HPや動画配信はコチラ



<https://fukushi-sh.net/>

一般社団法人 福祉システム北海道

〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ 2階

札幌市市民活動サポートセンター内

TEL/FAX (011) 838-8483

E-mail: info@fukushi-sh.net